

こども食堂に関する取組について

こども食堂は、子どもの置かれた状況を早期に把握し、行政機関や行政サービスにつなぐための気づきの地域拠点として、また地域のあらゆる世代との交流の場として、地域のボランティアと連携し、開設を進めてまいりましたが、平成30年7月には小学校区全てに開設され、現在46か所のこども食堂が開設されています。

あかしこども財団は、こども食堂において、継続した運営がなされ、活動が広がり、気づきの地域拠点として関係機関とつながるよう、その特性に応じたきめ細やかな支援を行っています。

1 こども食堂の概要

運営者	まちづくり協議会、民生児童委員協議会、地区社会福祉協議会、NPO法人、地域ボランティアグループ 等
開設場所	コミュニティセンター、厚生館、市民センター、集会所、デイサービス事業所、喫茶店 等
開催数	開催中：38団体 休止中：8団体 合計：46団体
開催形態 (開催中の団体のみ)	食事型：20団体 市販品型：8団体 テイクアウト型：10団体
開催頻度	月1回～2回が多く、他には週1回 等
食事以外の 支援	遊び(クイズ、カード・ボードゲーム、輪投げ、色塗り等)、絵本の読み聞かせ、学習(宿題)、調理実習(災害時に役立つ方法で調理)講座(防災、SDGs、交通ルール、新型コロナウイルス感染症)
料金	子ども：無料
参加人数	開催1回当たり約10名～約50名

※令和4年5月31日時点

2 学校とこども食堂との連携状況

(1) 学校施設(コミセン施設を含む。)の活用 12団体

学校の家庭科室や小学校・中学校コミセンを活用しています。

(2) 広報の協力

○ 教員がホームルーム等で子どもにこども食堂の募集ちらしを配布 20団体

○ すぐメール(※)を活用しこども食堂の開催時間等を周知 8団体

※ 市教育委員会から学校園の児童生徒等の保護者等が登録したメールアドレスへ一斉情報配信するシステム

(3) 市スクールソーシャルワーカーとの連携

○ 市スクールソーシャルワーカーと適切に連携できるよう、年1回程度、あかしこども財団はこども食堂の実施状況に関する情報共有を図っています。

○ 支援を必要とする子どもがいるこども食堂については、市スクールソーシャルワーカーと緊密に連携しています。

○ 市スクールソーシャルワーカーから相談があった場合において、あかしこども財団が支援を必要とする子どもとこども食堂とのマッチングを行っています。

3 こども食堂の成果

- こども食堂では、子どもと一緒に調理をしたり、食事の前後に勉強したり、楽しい遊びを取り入れるなど、それぞれに工夫をし、子どもたちが来やすい雰囲気づくりをしていただいております、子どもや保護者から喜ばれています。
- こども食堂において、支援を必要とする子どもに気づいた場合、運営者があかしこども財団を通じ、こどもセンター等の市の担当部署に連絡し、必要に応じた支援が行われるなど、支援を必要とする子どもの早期発見、早期支援につながっています。
- こども食堂は、家庭や学校以外の、子どもたちが安心して過ごすことができる居場所であり、自分に関心を持ってくれる大人たちがいることで、自己肯定感を育むことができる場となっています。
- こども食堂の広がりに伴い、食材の提供や学生ボランティアの参加など、こども食堂を通じて、子どもたちを応援したい、地域で見守っていきたいという市民の機運も高まっています。